



2011年5月

さくら

発行：偕行会透析医療事業部 さくら編集委員会

『血液透析と血圧』

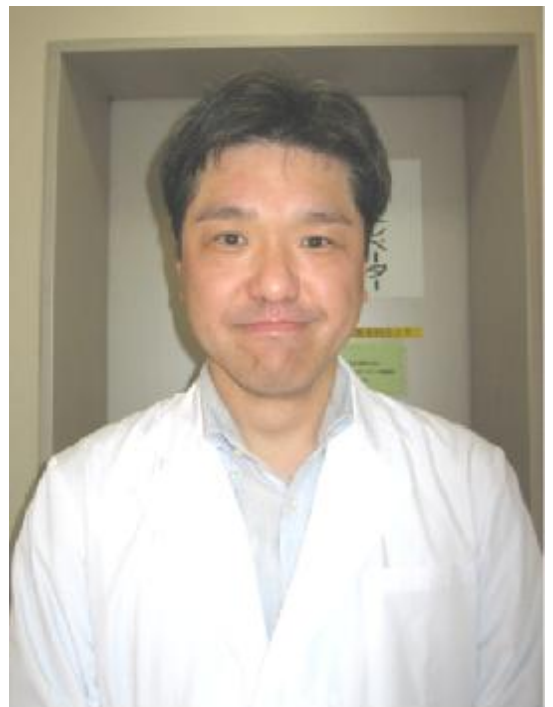
医療法人社団偕翔会 掛川共立クリニック院長 井上 肇

はじめまして。

昨年10月に透析医療事業部に入職させていただきました医師の井上肇と申します。

本年4月より掛川共立クリニックの院長に就任させていただきました。よろしくお願い申し上げます。

「血液透析と血圧」についておさらいしてみます。



1、「血圧とは」

1) 医学には血圧という概念がなかった

中国の古医学に聖人の作と言われる「傷寒論」がありますが、これは約1500年前に成立されたと言われています。主に今日言われる普通感冒や、インフルエンザ、胃腸かぜなどと思われる症状に関して様々な記述がみられます。

その中で、治療のために下剤を使いすぎたあと、起立性のめまい、脈を触れると緊張している、身体のふらつきなどを認めるとありますが、おそらく血圧低下の症状と思われる。このころの中国には血圧の概念はなかったと思われます。

西洋で血圧が最初に記録されたのは1733年で、馬の頸動脈に直接管を挿して計ったもののようです。

1905年にコロトコフが上腕などをマンシェットなどで加圧して、血管音（コロトコフ音）にて収縮期（最大）血圧、拡張期（最低）血圧を測定する方法を発見しました。